



サカタニ友の会ニユース

人口の減る国は亡びる

先口ある 見かけられた。 京都市貞 給食の飯は 学校竣工祈年帖 昭和二年・1908・ 十一月三月(なる小冊子をお預かり した。(左方の写真)

同校は、耳塚隣地に明治二年開校、 京都府達で「二十九番組学校」と名 付けられ、正面校と校名となつた が地域の人口増加で明治11年鞆 町正面下がるに移動、貞教と校名し た。更に人口増加に合わせ、増改築 と隣地購入し、昭和三年に竣工した。 写真は校舎西側から運動場での主 校生徒朝礼の姿である。

私は昭和十五年(1940)四月七日に (天候は雨)入学、当時の学校は写真 の姿だった。一年生の頃から、南と西 に校地が広がり校舎も移動し運動 場も広がった。生徒数も増え約九百 名はあったと思う。一年生の二月 米英と戦争状態に入った。産めど増 やせのボタイが当時張り紙)が多

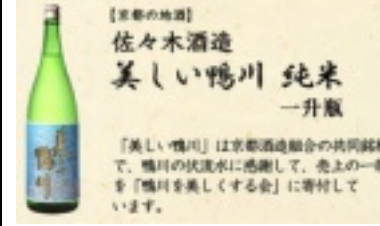


く見かけられた。 子沢山の家は表彰もされた。学校 給食の飯は しては次第に豆粕が多く混ざった 飯になり、授業中教室の「アチコチで 「プー」といふ音がした。 アリュシヤン列島、アツツキ島、 サイパ島の玉砕と続いて本土空襲が 始まり、広島長崎の原爆と連参戦 で日本は無条件降伏をした。そして 米軍の占領統治下の日本になつた。 敗戦を境にして、夫や若い男たちが 復員して、深刻な食糧状態下にも拘 らず、第1次ベトナム(私の弟 妹世代)が到来した。占領軍はもの すこい増殖「ぶりに」これでは日本が 餓死列島と化すと狼狽し産児制限 の提唱者サンガー夫人を招いた。 お陰様で日本は世界的で珍しい産児 制限運動の成功国となつた。一方 中国では国家戦略的に「一人っ子」政 策を実行した。が、両国とも次世代 が安定したとはいえないようだ。

また、今より劣つた生産力でもった 戦時でも一億近い人口があつた日本、 物凄く伸びた技術力生産力を無駄 なく使う努力をすれば、1億人は養 え、豊かで余裕のある生活が出来る のでは無かつたか?。 国家とは何か?国力とは何か?。 どいふ状態を幸せや不幸のの?。

その二つは、酒蔵は二つ、その一つが上京区佐々木酒造さん。

鴨川を美しくする会の応援酒



1.81・2044円 720・mL 1049円 300mL・409円

開催日:9月21日(定例第3日曜日:朝9時~) 第116回 朝粥食べておしゃべり会 報告者:高木英智 様



写真:2f奥のホールでお話に聞き入る皆さん

もつ一度考えて見たいものだ。 貞教校の昔の写真を見て生徒でこつ た返しの運動場で遊んだ旨を思い出 した。今の子供たちより、ブート元氣 で楽しく、多くの友達と遊んだ頃を 思い出した。 卒業後70年、毎年開催の貞教小 同窓会、近く開催、何人来るかなあ、 お預かりした本は、公共施設 にご保管を頂きました。

朝粥食べておしゃべり会 恒例・食前のお話: お題・70歳太平洋処女航海 本日の講師は、元京都ヨットクラブ会長の村田和雄さん。 御年79歳、医者知らずといふ元氣のかたまり。静岡で生まれ育ち、海が大好き。大学 のヨット部で活躍、代表取締 役専務としてビジネスの第一 線で長く活躍され、「日本の 会社は1カ月休んだらおまえ はもついたらない」と言われる 事情もあり、3歳年下の堀江 謙一さんの太平洋処女航海成 功に刺激を受け、自分もやっ てみたいという思いをずっと 温めながら、70歳で実現。 約8mの木製ヨットで96日 間の無寄港横断。晴天のおだ やかな日はほんの数え るほどの航海の中でい るんなことを思われた とのこと。 高さ12mの波、30 mの暴風にあつては 「祈る」とはこつこつ ときのことを言つた。

と人の命、動物の命のはかなさ。 これを実感する旅だつたと。準備は裏切らないと言いますが、転覆したときのために備品を網に入れて流されないようにしておくとか、万一、指を骨折したときにはどう対処するかまで考えられての航海。堀江さんの23歳の若さからくる航海とは一味違つた。0歳の航海。航海の前と後とで変わったことは「成し遂げたのでリラックスしたこと」と「どんなことでもびっくりせず、落ち着いて構えられるようになった」とのこと。 「生きているのは一回しかない、日々を大切にすること」と力強く語られ、スポーツや語学勉強を今も続けられておられるバイタリティーあふれる素敵なシニアマンでした。



写真:2f奥「ギャラリ」集めて朝粥楽しむ方々

どんつき

愛称がおたかさん

親しまれ、護憲のシンボルだった 土井たか子さんが、20日。お亡くなりになった。「冥福を祈る。 女性初の衆議院議長も務められ、「反消費税」を掲げ「メト」ナ旋風「自民党等の与党過半数割れに追い込んだ方。惜しい。生前に幾つもの有名な言葉を残しておられる。やるべきやないダメなものはダメなどの歯切れ良い言葉がある。 もつ一つ、与党過半数割れのとき「山が動いた」がある。残念ながら政界では「山は動かす」消費税10%の山が近くなつた。 だが、自然界が、彼女の言葉を引き継ぎ山が動いた。日本で二番目に高い(休火山)木曾の御嶽山が噴火した。犠牲者も多く痛ましい。 噴火は27日昼、「おたかさん」。 没後7日目。世界一多い休火山のある日本。原発も多い。彼女の命を懸けた警告かも!。 九州の川内原発は頻繁に噴火する桜島に近い。それを再稼働しようとして。電気はなくて人は生きていけない。 私は敗戦直後の日本を知っている。水力発電を補つ火力発電が足らず、毎日停電した。ランプや行燈下で勉強した。 政治の一番大事なこととは人の命を守る。これは世界共通だと思つた。「御嶽山を動かしてまでおたかさん」が警告したよつに思えてならない。

ヨシちゃんのと ひとりごと



お得意先& ユーザー

祖父・父・そして私と長い間、酒屋として生き続けてきた。今の営業の主力は「コンピニ」ファミマだが、気持ちの中では「酒屋」が抜けない。苗字にも酒の字がある。それで80歳まで生きてきたのだから仕方ないだろう。

祖父の代は「小売りと飲み屋」父の代は(昭24)「酒問屋」。ある範囲内の固定のお客様(お得意先)を対象に商いをしてきた。幼い頃の記憶だが、ある日、お得意先の寿司屋さんが訪ねて来られ「隣の焼焼で、支払いを待つて欲しい」と祖父に申された。祖父は「ヨツ」とお待ちを弄掛台帳を持ってきて火鉢で燃やしてしまった。「帳面も燃えて無くなりました。お宅には貸はおへん」と告げた。後で祖母に、今まで仰山儲けさせて貰ったお得意さんや、こんな時お力にならんと」と祖母に言っていた。奉公人には、常に他の同業者さんのお得意先を侵すなども言っていた。私は酒屋を継ぐ積りは全く無かったが、父の代一度危機的な状態になり「酒問屋」の仕事に従事し、その後、42歳から酒小売りの才で「コンピニ」と業態を代えながら今に至っている。「ファミマ」して28年、80才の今、私も変ったが、お客さんがより大

きく変わられたようだ。

「酒問屋」時代は、酒免許がある京都市内や滋賀県の南部をエリアにセールス活動をしていた。地域を曜日毎に時間も出来るだけ同じ時間に設定して廻る。親しくなると待つて下さる関係が出来て売り上げも定着した。酒小売りになって、開拓セールスもしたが、前に酒を卸売りしていたお店から仕入れて居られる店は避けた。売り込んで人間関係を壊したくないと思って。又、爺さんの話になるが、『売ると言つ字は買つの上に十一を乗せてある。商は「めでたい」といふ字、それが合わさって「商売や」と言つていた。小学2年まで「父母」の居ない状態で祖父母に育てられていた。三つ子の魂百までの影響が強く残っているようだ。

近頃は、お客さんを「ユーザ」と呼びお客さん側も、自らを「ユーザ」と思つておられるらしい。「つくる人、使う人」「買う人、売る人」があつて、お互いが成り立つのに何か変な感じがする。何時の間にか「ユーザ」が優先になつた。私の感覚では「お客さんは大切な友達」だと思つてる。単なるへそ曲りかも知れない。「友の会の会員」さんが昨年より50人減つた。



酒屋と讃岐うどん屋時代の店

なんでやる 石動敬子

なぜだろつ、あちこちが絶えず掘り返されている。いつ見ても「事」なのは道路だけでなく、大病院だったり、キャンパスだったり。大クレーンがそこそこを吊り上げている光景は、なんとも落ち着かない。

「京都も変わつて、昔の風情もなくなつたねえ」といわれ、「一見そう見えても、よくよく深く分け入るとやっぱり好きな京都がいっぱい残っているよ」と応じたが、実際はどうだろう。そちこちに工事の手が入り、新しいものが建ち、その陰でひっそりと消えゆくものがある。その光が濃ければ影も濃

い。こつこつと事を「活性化」とただ歓迎していいのかが。「何で」と二言目には尋ねる年齢になつた孫のように、私も尋ねたい。なんで、あの信号はこんな東西と南北行きでこつこつ時間が違

うの?なんで、あの公園の柵があるなブサイクで、高くておまけに鍵がかかっているの?何で、誕生日が来た、と言んだ途端、頼みもしない介護保険が来たりするの?なんで。

そもそも意見が大きく二分されているのに、選挙の僅差の勝ち負けだけで民意を得たとか言つて強行するの?いや、負けても、やりませ、とまで言つてましたよ。驚くわあ。辺野古への基地移転、Xパンドレーダーイン丹後など。なんで、なんで。

時々、あんな人が議員さんだつたん?とがっかりさせられることも多発しているのはなぜ?(氷山の一角?)選挙が近づくとなんで?引つ付いたり離れたりなん勝ちな馬、負け馬は、運動会なら、時の運と笑えるけれど。なんで、なんで、なんで。

なぜ、を胸にたたんでしまつただけの日常は危ない。身体に悪い。人た私もお手伝いをし、結核病棟は造らず、積翠園は保存する協定で決着しました。その後京都尊売病院、東山武田病院と変わり、一時は山科の病院が来るとの噂をききました。ところが昨年、フォーシーズンズホテルが出来ることがわかり、事前の説明会に出席して「協定は」との質問に継続されると聞きほつとしました。

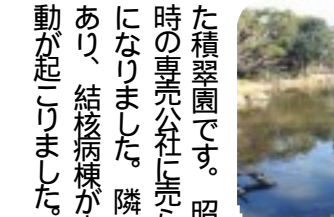
と言葉を交わしてこそ笑えたり、なるほど、あなたもそう思われませんか?と弾む。吸つて吐いての呼吸も、金木屋が匂いだした今楽になった。ラスト?チャンス、今でしょう?大いに繋がつて「あほ」みたいに「何で?」探しをしたら楽しい、冷え行く季節も温かくなる気がします。



金木屋

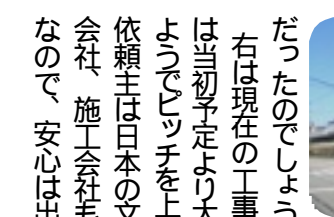
なぜか、ほんとに京都の路地は美しい。色んな異なる花が木が四季折々の家々を彩つていて、行く人を思わず立ち止まらせる。そんなにも優れた美意識を持ち、みんな違つてみんな、素敵。そつと思えるのに、見えている異様なまでの建設ラッシュを黙つていいの?「リアモーターカーを京都のために!」などと本気で叫んでる人たちに、古都京都の叫取りを任せていいの?その裏には壊されて行くところとしてのものが山ほどあるのに。

今でこそ「三十三間堂」を抱え観光客の多く維持費は賄えるでしょうが敗戦後は観光客などなく、寺院も大変だったでしょう。右は現在の工事現場です。工事は当初予定より大幅に遅れているよつてヒツチを上げられています。依頼主は日本の文化に無縁の外資会社、施工会社も当初とは違つたので、安心は出来ません。



積翠園

隣のペー ジ石動敬子様の「なんでやる」のご投稿を見て書きました。上の庭園は東山七条上る妙法院の庭園です。昭和30年頃、当時の専売公社に売られ「専売病院」になりました。隣に修道小学校があり、結核病棟が出来ると反対運動が起りました。当時20歳だつ



積翠園

京都&東山 ぶらりピカリ

53

東山区
だいきくまちとおり

大黒町通

(写真) 正面南東角の鳥塚



東山区は、東山と

鴨川に東西を挟まれ、南北に細長く、その間に社寺仏閣も多く、それを避けるため、三条通りから稲荷神社近くの区内を縦断する通りはない。この大黒町通りも、大和大路松原(北御門町)の五叉路が起点で七条通り迄の短い通りである。

起点地点の一角は、鎌倉時代、朝廷観音目的で「六波羅探題北殿」や平氏の館が立ち並んでいたとある。起点を少し(南へ)下がる、開祖口柔の「壽延寺」があり、「念仏大黒天」が祀られていることから「通り名」になったのだろう。

寺の参道右側に「洗い地蔵」があり、自分が知人の「悪い」ところで「地蔵」の同じ部分をタワシで擦り洗うと治ると言われ、お参りする人も多い。ここから少し(下)下がる、見落(とす程)小さな「陶匠奥田頼川宅跡」と刻した石碑がある。江戸



中期の陶工で、建仁寺南側で『窯』を開き名品を世に出し、京焼の復興に力を注いだ人である。さらに五条を越え南

には、京料理で著名な「はり清」。その隣が常徳寺だ。私の青年時代(17~22歳)毎週日曜日の夜、お寺の一間をお借りして「東山日曜会」の名の勉強会(社研)を友人達としていた。特に青年男女が多く集り、喧々諤々の論議の花が咲いた。講師は、当時平安女学院の藤井義三郎先生達だった。お寺の和尚さん(赤松真正師)は「お寺は、年中門を閉じてはいけない。思想や身分差があっても区分けや差別は駄目」と仰り、本堂を板張りにして「ダンス教室」にお貸しされ、ご本山とモメて新聞沙汰。偶に論議にも長時間お口を挟まれ困ったりもしたが、チョットと面白い和尚さんであった。子供頃は、超大人しく気の弱い男の子だった私が、様変わりしたのには、その「日曜会」が深く強く影響していると思う。

(脱線御免)正面通りの角鳥塚の向かいに熊谷山寺定寺(セシヨウジ=通称カラス寺)がある。旅僧専定法師が、この辺りの松の下で休んでいると、二羽のカラスが「熊谷直実の極楽往生の日だ、われらも見送りに行こう」と語り南の空に飛びだした。それで不思議に思い、熊谷直実が出家し開いていた「庵」を訪れると、「カラス」が話していた同時刻に「直実」が亡くなっていたと知る。僧専定は、あの松の木の下は、直実と縁のある地だと「寺」を建てたという言。この話は方広寺七不思議の一つ)

市電が走った 京都を巡る

44

福田静二



丸太町線
新垣から丸太町

丸太町線を西に向かう市電に乗ることにします。丸太町通の南北両側にはさまざまな店が続きます。京大の工リアの西限でしょうか、古書店も何軒が見られました。北側には寺院を思わせる大きな建物が見られますが、これは、天理教の河原町大教会の建物です。まもなく到着するのが「川端丸太町」の停留所です。すぐ西には鴨川が流れ、平

行する南北の通りが川端通です。この付近の丸太町線の開業は大正二年で、当初の停留所名は丸太町橋東詰でした。川端丸太町となったのは戦後、昭和二十四年のこと



川端丸太町の停留所を発車する市電

です。

私が生まれ育った地域に近づいて来ました。少年時代の思い出に近づいていきます。昭和三十年の道路ではなく、上下各一車線の狭い道路で、川端通と鴨川の間にも街並みがありました。その街並みのなかに、川端市場と言つ京都市の公設市場があり、多くの買い物客で賑わいを見せていました。川端市場の南隣には京都市教育委員会に關係する、和風の大きな二階建て建築もありました。昭和三十年代の中ごろと記憶しています。この建物全焼する朝火事がありました。ちょうど小学校へ登校する前の時間帯で、級友とともに鴨川の対岸から眺めたことを覚えていいます。

川端丸太町下ルには、市電の架線修理車両を収容する二線式の車庫がありました。丸太町線の両側から入れるポイントがあり、市電の架線が切れるとすぐに応急修理に駆けつける修理車両が常駐していたほか、ときどき、市電も置かれていたことがありました。車庫のすぐ横の鴨川の河川敷には、「秘密のトンネル」もありました。雨水を鴨川へ流す導水管と思われませんが、子どもにとっては格好の遊び場でした。今も丸太町橋からそのトンネル跡を見ると、少年時代のことを思い出してしまいます。



丸太町橋で鴨川を渡る市電
背後は川端通

川端通と鴨川の間にあった街並みが一掃され、現在のようない道路に变身したのは、昭和四十七年には、川端通で京阪電鉄の三条線が、川柳間の鴨東線の地下線工事が始まります。鴨東線の構想は、大正時代にいまの叡山電鉄によって地上線として計画されました。紆余曲折の末、地下線で建設されることになり、京阪電鉄の子会社の鴨川電鉄によって建設が実現することになります。平成二年に開業し、この川端丸太町には、京阪丸太町駅が設けられ、この付近の人の流れもずいぶん変わりました。駅名が、京都市営地下鉄と同名であることから、平成二十年に「神宮丸太町」に改称されます。その鴨川を丸太町橋で渡ります。そして、私の生まれ育った街、河原町丸太町へと市電は進んでいきます。

酒屋で生きて 生かされて



第九十五話 敗戦前後の

我が店



1944年（昭19）ともなる酒の配給も途絶え「冠婚葬祭用の特配しか入荷しなくなつた。塩

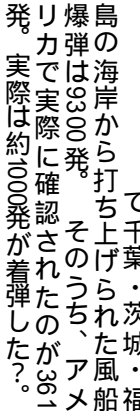
は途切れなかつたが、醤油味噌も少量の配給になり、父も陸軍に召集され兵隊に採られ、酒場は閉店し酒屋も閉店休業、祖父は軍事情場に勤めた。隣接の家で番頭の「新吉とん」に任せていた「国民酒場」も彼の兵役と酒不足で閉店した。

店は「著・歯ブラシや歯磨き粉」と塩、醤油、味噌の配給分の売上げしがなく、店員は全て兵役、火の消えた状態だった。祖母も婦人会の勤勞奉仕で近くの氷（コオリ）屋さんに集まり、「紙を重ね張りする」作業を行っていた。後に「風船爆弾用の紙」と判った。

→ 945年1月16日に東山区馬町空襲 3月に東京・大阪が大空襲された。国民学校の学童集団

風船爆弾

紙を蒟蒻糊で重ね張りし風船を造り爆弾をぶら下げ空へ。太平洋戦争末期の1944年2月から翌5年5月まで千葉・茨城・福島海岸から打ち上げられた風船爆弾は330発。そのうち、アメリカで実際に確認されたのが361発。実際は約1000発が着弾した？。



疎開、私は身体弱く、炭山（現宇治市）の親戚に預けられた。五条・お池、堀川の通りの家々が強制的に壊され、八月に広島長崎の原爆、ソ連参戦があり、8月15日に日本本は「無条件降伏」をした。日本敗戦に涙した祖父は9月1日58才で病死し、父一郎が店を継いだ。

父は当時、軍務を解かれ、陸軍空軍の物資調達に従事、敗戦後その仕事仲間と商會会社をつくり、軍のルートを頼り「綿布、アルコール」まで扱っていた。

ハロウィンの 午後



イギリス、石と煉瓦の堅い街、普段の日暮頃は閑散として寂しいのだが、聖人の日の前夜は騒がしい。なんせ、子ども達もいい大人も仮装をして、町中を歩きまわるのだから。

あちらからは元気のいい「Halloween treat」が響き上がり、そちらからは、成人手前の青年達に、家を小さく悪戯された楽しい叫び声、こちらからは「君、どうしたの??」

いい大人の男がと思つて仮装もせず街を見て回っていると、足下にカボチャ頭のマントを着た子が蹲っている。お腹が痛いのか頭が痛いのか、歩き過ぎて疲れてしまったのか、あるいは挫いたか。

「どうした、何処か痛めたか」
「医者で、どうしても放つておけなくて聞いてしまつた。カボチャ頭と同じ目線までしゃがむと、頭の中を巡っていた症状が一つずつ消去されていく。彼が持っている麻袋に目を向けると、まだぺたんこだ。
「ああそうか、この子は「お腹、空いたよ...」
「奇遇だね、私もこれからブランチなんだ」
私はカボチャ頭の手を引いて、お気に入りのカフェへ向かった。
カフェでは、カボチャ頭のお陰で、一人ともお菓子をいっぱい貰った。奥さんや旦那さん、お客さん達が彼を見るなり、先手必勝と言わんばかりにお菓子を浴びせたのだ。私の袋の持ち合わせが無い分、カボチャ頭の袋は大きく膨らしか無かつた。

敗戦までは、不十分であつたが配給の仕組みで物資は流れた。敗戦後は「闇ルート」で物資が動き、来の仕組みが壊れ、酒を含む食品業界の再編成が行われた。

地域登録毎にその所帯が、酒・醤油・味噌を買つた店の登録をして貰い、一定の所帯を集めた店に「免許や許可」をする形が採られた。我が店は「酒」の登録件数が少なく、親しい酒屋さんから登録した世帯を譲つて貰つて免許が維持出来た。そして隣の「飲み屋」を祖母が中心になつて再開した。

み、重そうに引きずつたから私が持つことにした。
お腹が膨れた私達は、ほんの少し町を散策し、私の家へと向かつた。ハロウィンの午後にも関わらず、体調を崩した客も来ないため、カボチャ頭とお茶を啜つて時間をやり過ごしている。長い話をした所でそれを切る急患来なさそうだ。だから、私はカボチャ頭に、三つの質問をしてみた。
「袋のお菓子は食べないのか?」
「...」
「首を振る」
「そうか」
「では、君の名前は?」
「...ランブ」
「いい名前だ。帰るところは何処だい?」
「ココツ!!!」
「何を言っているんだい」
私は言葉の続きを止めた。ランブに言い返そうとしたら、そこにはカボチャ頭とマントとお菓子のいっぱい入った袋しか無かつた。

「お腹、空いたよ...」
「奇遇だね、私もこれからブランチなんだ」
私はカボチャ頭の手を引いて、お気に入りのカフェへ向かった。
カフェでは、カボチャ頭のお陰で、一人ともお菓子をいっぱい貰った。奥さんや旦那さん、お客さん達が彼を見るなり、先手必勝と言わんばかりにお菓子を浴びせたのだ。私の袋の持ち合わせが無い分、カボチャ頭の袋は大きく膨らしか無かつた。

編集後記

9月末は当社の第51期の決算編目。この一年の集計作業も多く「てんやわんや」です。「とんからりん10月号」のお届け遅れるかも。

その上、年中無休24時間営業の「ファミマ」が会社の一番大きな仕事。店の人が働いて呉れていると思つと、自分が休む気になれず働く。

年の労働時間は一番多く、報酬はバイトさんより低い。世間のブラック企業の経営者達に、私の「爪垢」を呈呈したい気分。よつオキハイですなあ」とお声をかけられることも多いが、本人は「これが日常になつていて苦にならない性分だから」と割り切つていた。

そんな折、偶々ネットで「仕事依存症候群」という言葉を見付け「自己診断テスト」表あり、殆どにチェック印をつけて回答を見た。

あなたは重度の仕事依存症です。とでた。アルトルは「こギャブル等の依存症と同じで仕事中毒（カボリック）という病気だ」とある。

薬があるつと調べたが馬鹿に「同様になぜ。仕事を苦せず楽しんでる部分もあるから、軽度と自己判断していい。

子供のころはお前は三日坊主と祖母に叱られた。そんな私が十数年「とんからりん」を書いてる。十月十日は祖母の命日。もつ三日坊主ではおへん。とお墓で報告しよう。